

広島研修 拡充に意欲

ユニタール本部長が視察

志賀館長(左)から説明を受け、原爆資料館を見学するフィーガンワイルス本部長(右)



スイス・ジュネーブに本部がある国連訓練調査研究所(ユニタール)のサリー・フィーガンワイルス本部長が26日、広島市を訪れた。昨年10月の就任からは初めて。ことしで開設10年の広島事務所(中区)について「紛争地復興のための人材育成に向け、被災地広島での研修を

拡充させたい」と話し、アイランド出身のフィーガンワイルス本部長はこの日、平和記念公園(中区)を訪れた。志賀賢治館長の案内で原爆資料館を見学し、原爆慰霊碑に花を手向けた。爆心地から2・4キロの牛田町(現東区)で被爆した小倉桂子さん(75)＝中区＝の被爆体験も聞いた。フィーガンワイルス本部長は「資料館の黒焦げの弁当箱に胸を揺さぶられた」と涙を拭いて話し、「広島を訪ねる経験はとも大勢。紛争地から多くの

研修生を招く取り組みを広げたい」と強調した。

ユニタールは、国連に加盟する発展途上国の人材育成を担う。2003年に開設された広島事務所は、アジア・太平洋地域の政府関係者たちを招いた研修に力を入れている。

(加納亜弥)

27 April 2013, Chugoku Shinbun
UNITAR Executive Director, Ms. Sally Fegan-Wyles, visited Peace Memorial Museum, Showing a willingness to expand trainings in Hiroshima
Ms. Wyles also offered the flowers to Cenotaph and commented the visit Hiroshima itself would provide unparalleled experiences to workshop participants, and enhanced the vision to expand UNITAR initiatives to invite training participants to Hiroshima.